

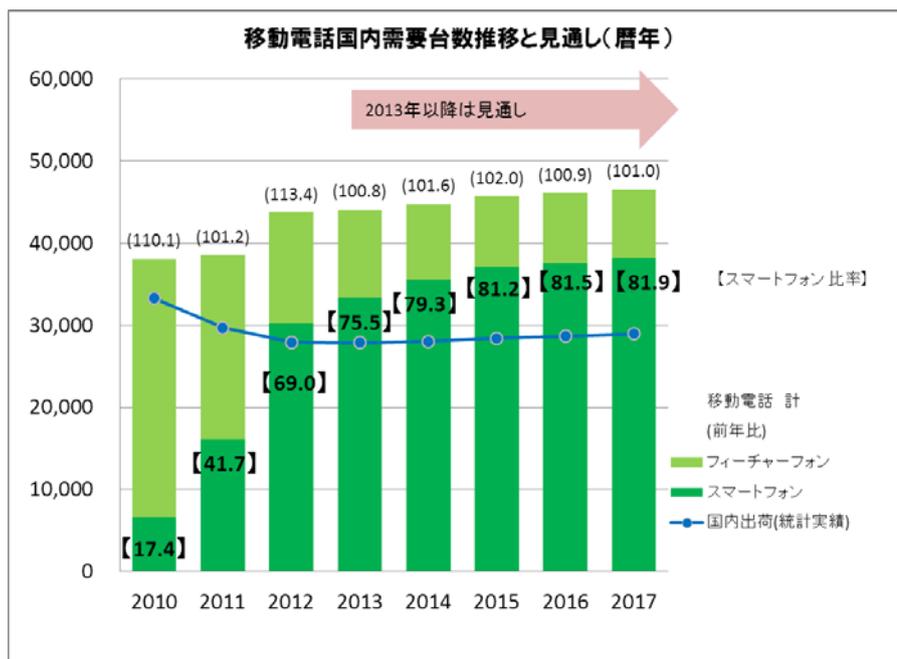
『移動電話に関する市場調査報告書 ～スマートフォンの拡がり新たなステージに向けて～』 の刊行について

一般社団法人 電子情報技術産業協会

一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)・移動電話WGでは、平成24年度の活動成果として『移動電話に関する市場調査報告書～スマートフォンの拡がり新たなステージに向けて～』を刊行いたしましたので、ここに概要をご紹介します。本調査が、内外で広くご活用いただければ幸いです。

(1) 日本市場における移動電話の将来に関する調査

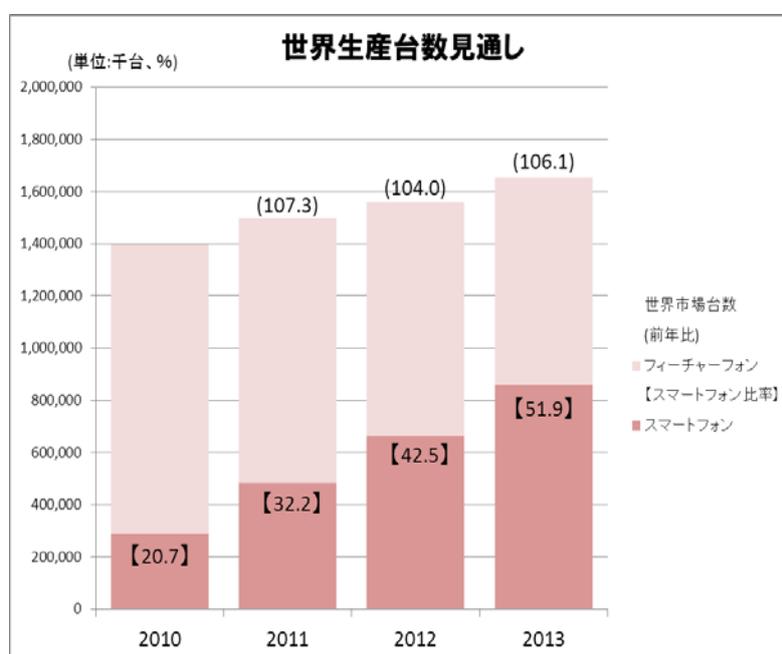
2012年の移動電話の国内出荷台数(統計実績)は27,968千台、前年比94.2%と2年連続のマイナス、2年連続で3千万台を割り込む非常に厳しい結果となった。2007年の5千万台超の台数から比較すると実に約4割強の減少となっている。一方で、統計に参加していない企業を含めた日本市場(内需)全体の台数を見ると43,668千台、前年比113.4%となっている。LTEサービスの普及もあり、引き続きスマートフォンが大きく拡大した年であった。2010年に17.4%であったスマートフォン比率は、2012年69.0%に拡大し、2015年には81.2%と8割を超える見通しとなっている。スマートフォンはオープンOSが使用されており、従来の国内市場、海外市場間の垣根が低くなったことで、グローバルに共通なモデルの展開が可能となった。今後も国内メーカーと海外メーカーの競争はますます激化し、国内メーカーとしては常にグローバル市場で展開される競合モデルを念頭においた商品開発をしていかないと生き残ることはできない。



《統計実績のカバレッジは、2010年に87%あったが、2012年には64%と低下した》

(2) 世界市場における移動電話の現状と将来に関する調査

2013年の移動電話の世界生産台数は16億5,435万台、前年比106.1%と見通した。スマートフォンは世界的に需要が急拡大しており、今後も高機能化、高性能化に加え、魅力的なアプリケーションソフトの増加が引き続き個人需要を牽引すると考えられることなどから、前年比129.5%の8億5,869万台まで伸長し、スマートフォン比率も前年の42.5%から51.9%にまで拡大、フィーチャーフォンの生産台数を逆転する見通しである。スマートフォンの拡大により、スマートフォンをネット上のバーチャルな世界だけではなく、現実の世界と連携させて活用する方法のひとつとして、NFCが注目されている。日本ではおさいふ機能などで既に親しまれている機能だが、世界市場でもNFC対応端末が増えることで、新しいサービスが増加、利用が拡大すると考えられており、市場拡大の起爆剤として期待されている。



《世界市場では、2013年にスマートフォンの台数がフィーチャーフォンを逆転する見込み》

(3) 移動電話を取り巻く日本市場の現状に関する調査

今回の販売店調査の特徴としては、スマートフォンの本格導入から2年がたち、スマートフォンからスマートフォンへ買い換えるユーザーが増えてきていることが明らかになった。買い換え時に同一メーカーへのこだわりは少なく、これは国内メーカーにとってもチャンスである。また、来客数や端末販売数の増加など、一時の低迷から抜け出し、明るい兆しも見え、少しずつ良い方向へ向かっているのではないかとの印象を強く感じた。さらに、今回は新たな取り組みとして移動電話の新モデル調査を行った。各社から新製品が発表、発売される時期を捉えて、その時々の特徴と変化のトレンドを解き明かせれば、との思いで始めたものである。特徴としては各キャリアは機種数を絞る方向にあるのではとの予想に反し、この半年間で機種数は増加していた。今後これらの調査を継続することで、日本市場のニーズとシーズがより明らかとなり、製品企画の一助となることを期待する。

JEITA

スマートフォン市場の急速な広がりは、移動電話市場に大きな変化を巻き起こし、電話という元々の位置づけさえも変化させ私達の身近なネットワークの入口として、なくてはならないものになりつつある。今後もスマートフォン加入者が増加することが予想される中、ユーザが安心して、また簡単に機能やサービスを利用できるように、キャリア、端末メーカー、アプリケーション提供企業などが取り組んでいかなければならない。本報告書では、スマートフォンの広がりによる移動電話の日本市場や世界市場動向を把握すると共に、新モデル調査や販売店調査によって日本市場の現状把握や課題の整理を行った。

目次

はじめに

移動電話WG名簿

目次

要旨（エグゼクティブサマリ）

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的と背景

1.2 調査方法

第2章 日本市場における移動電話の将来に関する調査

2.1 調査の概要

2.2 移動電話の日本市場(内需)動向 ※日本市場(内需)推計

2.2.1 2012年の移動電話の日本市場(内需)動向

2.2.2 2013年以降の移動電話の日本市場(内需)動向

2.2.3 スマートフォンの普及に向けた課題

2.3 携帯電話の国内出荷(統計実績)動向

2.3.1 携帯電話の技術動向

2.3.2 携帯電話の国内出荷(統計実績)動向

(1) 2012年の国内出荷(統計実績)動向

(2) 2013年の国内出荷(統計実績)見通し

(3) 携帯電話の国内出荷(統計実績)中期見通し

2.4 公衆用PHSの国内出荷(統計実績)動向

2.4.1 公衆用PHSの技術動向

2.4.2 公衆用PHSの国内出荷(統計実績)動向

(1) 2012年の国内出荷(統計実績)動向

(2) 2013年の国内出荷(統計実績)見通し

(3) 公衆用PHSの国内出荷(統計実績)中期見通し

2.5 日本市場におけるトピックスと通信方式・契約数の推移

2.5.1 日本市場におけるトピックス

2.5.2 移動電話の通信方式

(1) 世代別通信方式の推移

(2) キャリア別通信方式の推移

(3) 4Gの定義と動向

2.5.3 移動電話の契約数見通し

参考資料-2.1 市場の将来像調査①調査結果

参考資料-2.2 市場の将来像調査②調査結果

参考資料-2.3 移動電話国内出荷過去データ(データ集)

参考資料-2.4 移動電話国内生産過去データ(データ集)

参考資料-2.5 移動電話輸出入過去データ(データ集)

第3章 世界市場における移動電話の現状と将来に関する調査

3.1 調査の概要

3.2 移動電話の世界市場動向

(1) 各地域の動向

(2) 加入者数の動向

3.3 世界市場におけるトピックス

(1) LTEの動向について

(2) スマートフォンOSの動向について

(3) NFCの動向について

参考資料-3.1 電子情報産業の世界生産見通し調査結果

参考資料-3.2 各社アンケート・コメントのまとめ

第4章 移動電話を取り巻く日本市場の現状に関する調査

4.1 販売店の現状調査

4.1.1 調査の概要

4.1.2 調査の方法

4.1.3 質問項目

4.1.4 調査結果

・各項目のポイント

・各販売店の回答一覧

4.1.5 総括

4.2 日本市場における移動電話の新モデル調査

4.2.1 調査の概要

4.2.2 調査の方法

4.2.3 調査結果

(1) 全機種(296機種)の傾向

(2) 品目カテゴリ毎の機種数と傾向

(3) キャリア毎の機種数と傾向

(4) スマートフォン分析

(4-1) 機能・性能の分析

(4-2) スマートフォンにおけるキャリア別/

国内メーカー・海外メーカー種別/無線通信方式種類の分析

4.2.4 総括

参考資料-4.2 新モデル調査・集計結果

4.3 日本市場における移動電話の課題に関するヒアリング

第5章 まとめ

JEITA

■刊行物ご案内

※政府刊行物センター、JEITAサービスセンター、JEITAホームページよりご購入いただけます。

書 名：携帯電話に関する市場調査報告書～スマートフォンの拡がり新たなステージに向けて～

サ イ ズ：A4判67頁（2013年3月）

頒 価：一般 21,000円／会員 10,500円（税込）

■事務局(本件の問合せ先)：

一般社団法人 電子情報技術産業協会

総合企画部調査グループ TEL：03-5218-1052

以上